

【資料1】

会 議 録

会議の名称	令和7年度第2回あま市スポーツ推進連絡会議
開催日時	令和8年2月4日（水）午後7時から8時15分
開催場所	あま市役所 2階 E会議室
内 容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 （1）令和7年度第1回あま市スポーツ推進連絡会議録について （2）令和7年度第1回あま市スポーツ推進連絡会議における意見と検討状況について （3）令和7年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目の状況報告について （4）意見交換 【テーマ】 スポーツを通じたまちのにぎわいとコミュニティづくりについて 4 その他 5 閉会
資 料	・次第、名簿、座席表 ・【資料1】 令和7年度 第1回あま市スポーツ推進連絡会議録について ・【資料2】 令和7年度 第1回あま市スポーツ推進連絡会議における意見と検討状況について ・【資料3】 令和7年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目の状況報告について ・【資料4】 スポーツを通じたまちのにぎわいとコミュニティづくりについて
出席委員	石塚吾歩路委員、石塚建伸委員、川寄寛繼委員、木全克己委員、木下 浩委員、猪飼哲也委員、竹田竜一郎委員、石原晶子委員、中村博美委員（委員名簿順）
欠席委員	立松武子委員
事務局	（教育委員会） 伊藤克仁教育長 鎌倉崇志教育部長 （教育部スポーツ課） 林孝之課長、栗原一成主幹、田口健次郎主幹、 鹿島みどり課長補佐、重本和美課長補佐、 水野晃寛課長補佐

会議の経過

1 開会

2 石塚吾歩路会長あいさつ

3 議題

- (1) 【資料1】令和7年度第1回あま市スポーツ推進連絡会議録について事務局から説明

【質疑応答】

なし

- (2) 【資料2】令和7年度第1回あま市スポーツ推進連絡会議における意見と検討状況について事務局から説明

【質疑応答】

なし

- (3) 【資料3】令和7年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目の状況報告について事務局から説明

【質疑応答】

なし

- (4) スポーツを通じたまちのにぎわいとコミュニティづくりについて事務局から説明

【質疑応答】

会 長：あまスポーツクラブでは、モルックとか、ラダーゲッターなどのインクルーシブスポーツを、様々な事業の中で、展開されているが、他の団体とのコラボや、コラボレーションでの問題点などがあったら教えて欲しいのと、また、その事業を通じて知り合った団体と新たなイベントを開催したことがあるかどうか、問題点と、他団体とのイベント開催の有無みたいなをお話していただけるとありがたい。

委 員：インクルーシブスポーツということで、6年前から、モルック、ラダーゲッター、その他のスポーツの事業、イベント、教室を重ねてきました。参加状況を見ると、右肩下がりで、徐々に少なくなっている。「どういう形でやったらいいか」社会福祉協議会で、地域サロンに出かけて、一緒にする。スポーツ課にお願いして甚目寺総合体育館の1階のホワイエが非常に広いので1回体験してもらおうと、ボッチャを

12月16～19まで4回やってみて、スポーツの団体以外に一般で利用されている、『バドミントン』『健康体操』『インディアカ』『卓球』『太極拳』『ソフトバレー』『ヨガ』『筋トレ教室』に来た人に体験していただき、数としては多くなかったが、「やってみると面白い」「何処でできますか」という意見や質問があり、動画配信も進めて、実際に進めることが大切だと感じた。場所があれば第2弾をという気持ちである。来年は、あま市民病院のスペースを利用してはどうか。今年、愛知県で第79全国レクリエーション大会を開催した。あま市は、11月1日にアートヴィレッジで行い、盛況に終わった。モルックは芝生など野外で行う点が一番の面白さなので、練習場の確保が必要となる。新たにコラボレーションするとなると非常に困難であるが、実体験の場を拡大していきたいと思う。

会 長：第79回レクリエーション大会の点で付け加えることがあればお願いします。

委 員：市長をはじめ、議員さんの方々に視察いただき大変ありがたかった。様々な行事が各地区で行われたが、200人以上参加があり大変よかった。大人も皿まわしなど、子供に負けない頑張りが見られた。モルックは、子供から高齢者まで、興味のある人が多く、何度もトライしていた。最近あま市でラダーゲッターの話は出てこないが、気軽にできるスポーツである。しかし、場所の確保が困難である。私達クラブの会員も年齢が高くなってきているので、他団体とのコラボが今後の課題である。フェスタをどこまで続けていくのかという点も課題である。若い世代への継承が望ましい。

会 長：その他団体との開催はどんなところが難しいのか。

委 員：高齢者のボランティアで、あま市のシルバーカレッジを卒業した方4、5人にお手伝いは来てもらっているが、多数をお願いすることは不可能。次のボランティア探すのが難航。商工会に全体を任せ、部分的に我々が手伝うという形が理想。

会 長：ありがとうございます。大変よくわかりました。まさに、高齢化の問題というか、人員確保の問題というか、イベント開催は人員が必要。スポーツ少年団が毎年行っている様々なスポーツを体験して、あま市スポーツ少年団の親睦と交流を図るとともに、あま市のスポーツ少年団に加入されていない子供たちへの加入促進を図る交流会を開催した。私も、出席したが、この交流会のような催しを他団体と共同で行ったり、『あまつり』『あまのわ』など様々な行事があるが、その行

事の中で、例えばブース出展してPRをするのはどうか。

委員：交流会は、毎年1月の最終土曜日に開催、準備期間は約1年。それぞれの団体が、この日に合わせて調整している。子供の減少により300名弱の参加者が、各競技を体験するが、次年度以降の参加に繋がるケースは少ない。加入者以外の小学生にチラシ配布しているが入会に至らない。人気のあるのは、バスケット、サッカーで、野球はだんだんチームが減ってきて、2チームが合併して1チーム作るという格好になってきているのが、心配である。それとは別に、指導者も仕事併用のため、夜間、土日に限られる。今後、学校部活動指導者を外部委託となると、どの様になるかが心配要素である。コラボとなると、試合が週末に重なるなど、問題点が考えられ進行困難である。また、交流会において他団体とのコラボレーションについては、会長から話があったようにブースを出展してチラシを配布できるとよい。

会長：スポーツ体験できる、小学生を対象とした交流会をやっているが、部活動の種目選定の参考になればと思うが、小学校では体育の授業以外で、スポーツに興味や関心を持つように、どのような取り組みを行っているのか具体的に説明を願う。

委員：1月のスポーツ体験交流会は、とても楽しいと聞いている。バスケ、サッカーは本当に人気があると思う。現在、野球が人気がないというのも、子どもたちからも出ている。様々な競技を体験できるのは、とても貴重で良い機会だと思うし、今後、生涯スポーツをと言われているので、楽しもうとする種目選定は重要である。一方で小学生の場合、参加については家庭の判断第1である。費用面、保護者の付き添い、土日の過ごし方、習い事や塾が土日にあるということも増えてきて、様々な事情があるのが現状であると思う。参加すれば参考になると思うが、参加する事態が前提条件になるというのは課題があるのかなと思う。学校での運動に親しむことについては、全校児童参加の縄跳び大会がであって、これはずっと伊福小学校が取り組んでるもので、とても人気があり、休み時間は担任も総出で、スポーツとして行っている。ドッジボール大会も企画として進めている。もうひとつ、借り人競争というのもやってるが、それは児童会が企画して行っている。これが、伊福小学校のいいところだと思う。委員会も活発で、体育委員は現在ダンス活動を行っている。昼休みに体育館に集まってT i k T o k等の短めにできるダンスを流して、体育委員と一緒に1～6年生までダンスをしている。集まっている人数がとても多い。縄跳び大会の

練習や体育館でダンスをしているということで教室に児童がほとんどいない状態です。自然に多くの児童が集まっているので、スポーツに親しむと言う面で伊福小学校は結構取り組んでいると思っている。子どもたちから出た意見を吸い上げて、先生たちも工夫してやっているのが現状。ただし、夏の暑いときは、全然できてないというのが正直なところで、体育館とかが涼しくなればという思いもあるが、子供たちは運動が大好きだと、私は感じている。

会 長：児童会が非常に頼もしいと思う。

委 員：縄跳びの結果を1年生何回、2年生何回と出す。来年も、何回目指そうって必ずその言葉をすべての担任が言っている。これが次に繋がると思う。休み時間も一生懸命担任総出で、団結にもなるし、こういう歴史もあるということが大きいのではないかな。

会 長：目標設定し、チャレンジしていく、やる気が出る仕掛け工夫があるということですね。今まさに縄跳びの話が出たが、、縄跳び、ドッジボールも、社福ではよく、子ども会の関係で、スポーツ大会をやっていると思うが、これも他の団体とコラボみたいな感じで、行事を行うことを考えたことがあるか。もし、その他のことででも結構なので、発言があれば、質問したい。

委 員：子ども会スポーツ大会は主催が子ども会で、社会福祉協議会は子ども会の事務局ということで開催している。開催する際には、市のスポーツ委員に協力いただきながら、実施している。あま市主催の「あまのわ」は、市民活動祭と、ボランティアフェスティバルを一緒に行っているが、こちらは、市民活動センターと共同運営している。また、子ども会同様に、社会福祉協議会が事務局をしている。スポーツ大会には、市の老人クラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会、市の身体障害者福祉協会が参加したグラウンドゴルフ大会などがあり、その際は、市のグラウンドゴルフ協会甚目寺支部の方が協力されている。その他、1月31日（土）に、社会福祉協議会で、『親子で防災事業』を、甚目寺総合体育館で開催した。その際、「市の防災ネット」「ボーイスカウト」「長谷川防災」など、各団体や企業にも協力いただき開催。また、高齢者サロンの中で社会福祉協議会において福祉出前講座として介護予防講座などを行っている。各団体に協力いただき、取り組んでいる。

会 長：「あまのわ」という言葉が出たので、「ほっとネット・みわ」の文書を紹介してください。

事務局：「当法人では、市民活動センターの運営実績をもとに、これまでも多くのイベントやコンテンツを実施して参りました。最近では、センターに登録する団体の活躍の場を提供し、より多くの来場促進を図る目的で、団体と協同してイベントを企画することも多くなりました。今年度の「あまのわ」においても、多様な団体との協働が実現し、バラエティに富んだコンテンツを提供することで、5000人近くのにぎわいと交流を実現することができました。これまで培った、多様な主体とのネットワークを活かし、イベントの目的やねらいに合わせて、企業や団体の持つ強みを活かしたコーディネートやコンテンツづくりは、当法人の得意とするところでもあります。スポーツの分野では、令和6年度の「あまのわ」にて、ファイティングイーグルスとのコラボレーションで、シューティングゲームを取り入れて好評を博しました。今回のテーマでもある、「まちのにぎわいとコミュニティづくり」という観点から言えば、「世代や職業、国籍などの違いを超えて、交流ができる」ことが重要だと考えます。であれば、誰もが参加しやすいスポーツ、例えば「ウォーキング」「ハイキング」「オリエンテーリング」「縄跳び」などを、歴史文化や観光などと絡めたり、身近な地域単位で定期的に「まちあるき」を実施するのは、取り入れやすい事例だと思います。特に「コミュニティづくり」ということでいえば、自主防災会等と連携して、「防災、防犯まちあるき」を実施して交流を図ることで、顔の見えるコミュニティづくりや地域組織づくりにもつながっていくのではないのでしょうか？また、あま市ではオリンピックメダリストを排出しているので、大会開催時には、各エリアの公民館等にてパブリックビューイングを実施して、まちぐるみで応援すると同時に体験イベントを開催すると盛り上がると思います。「スポーツ」というコンテンツには、さまざまな可能性があり、「一緒に体を動かす」「一緒に汗をかく」「チームで取り組む」「チームで競う」という中に、仲間意識や協力意識などが芽生え、「つながりづくり」の効果も大きいと考えます。あま市の中でも、いろんなイベントの機会があります。そこに「スポーツ」というコンテンツを盛り込むことはそれほど難しいことではないと思います。まずは、いろんな場面でより多くの市民が「スポーツに触れる、体験する」機会を取り入れることが大切だと思います。という文書をいただきましたので、報告します。

会 長：ママ・ぷらすも、あまのわに参加していたと思うが、母親同

士の交流の場所ですとか、親子の触れ合いの場を通じて様々な活動をしているが、これまでに他団体とコラボして活動したことはあるか。おそらくあると思うが、どのような経緯があったのか。また、意見があれば、お願いします。

委員：私たちの団体は、親子向けの講座など行っているのですが、他団体からイベント時に、声掛けをいただき、「親子向けの講座として「ヨガ」とか、「親子でできる体操」「出張講座」等のブース展開をしている。我々が団体を立ち上げる時、子育て中のお母さんが、ヨガスクールをスタートする話があり、共同で、ヨガ教室をとという話になり、ママ・ぷらすにあるヨガ教室に、参加しているママたちも一緒に活躍できる場を作ろうとの流れで、ヨガの講師の養成講座をとの話になり、年に1回あるいは数年に1回、ヨガ講師養成講座を開催し、後にママ・ぷらすの先生として活躍している。

会長：ヨガを習うのではなく教えるという、リアクションがあったり参加されるとか、やってみようみたいな感じになる人が、それなりにいるってことですか。

委員：最終的にヨガの講師としては、2、3名。

会長：次に積み上がっていくような、展開がそこにある ということですね。

委員：ヨガ教室の先生を、ママ・ぷらすの中でやらなくても自分の活動の中で、ママ友に教えたり、そういうことができるので、習いにこられる方もいます。

会長：スポーツ推進委員会では、市民ラジオ体操の集いをはじめ、市民体力測定会や、市民歩け歩け会等を開催しているが、他団体とのコラボレーションを考えたことはあるか。また、各事業の集客のため参考になることがあったら教えてほしい。

委員：私どもが問題視してるのは、参加者をどう増やすかということ。我々は仲間と一緒に協力をしてやっている。1つは、参加賞の問題。ある程度、いいものを出せば、参加者も多い。参加賞が例えばペットボトル一本だとかになると、参加者はぐっと減る。もちろん我々が、特に力を入れているのは、市民ラジオ体操の集いだが、郵政省が民営化される前は結構良い物を皆さんに配布できた。民営化されたら、あまりいいものがこない。それとひとつ、はっきり言ったらPR不足。ここでラジオ体操やってるの？いつやったの？っていうような、話をよく聞く。ホームページにも上げているし、広報にも載っているが、「いやそんなもん見てないよ」っていうことも聞く。いかに、PRをするか、どういうふうにするか、いろいろ矛盾が生じるかもしれないが、あくまでも個人的な意見

として聞いてもらえれば、私どもが担当してる事業は、すべてが、あま市教育委員会が主催している。そして私どもあま市スポーツ推進委員会が主管をしている。よって、このあま市教育委員会が主催する事業の開催日は、学校のグラウンド開放をできたら中止にして欲しい。それぞれにやっぱりクラブがあるので、日曜日だとかは、そっちに行っちゃう。野球、サッカーの練習で、そっちが優先になってしまう。そういう意味で、できるかどうか、今後のことになると思うが、せめて、教育委員会が主催する事業に関しては、学校開放はやめていただきたい。と個人的には思う。コラボということなんですけど、現時点で我々が行っている事業では、なかなかコラボするという事が難しい。なぜかっていうと、対象者が競技によって違う。統一できればいいが、なかなか難しい。ただ、スポーツクラブの方から、我々が事業をやるときは、皆さんに協力願って、PRはしている。インクルーシブスポーツの方に少しは目がいてると思う。やはり今の参加者を、どう増やすかが、一番の課題になっっている。今後とも、協力いただければ、ありがたい。

会 長：スポーツを通じたまちのにぎわいと、さらにコミュニティーを作る。大きなテーマだが、コラボの必要性、重要性、人材を確保するのが難しい流れの中で、具体的に進行するのが困難。商工会では以前、スポーツ関係団体、まちづくり団体、商工団体、企業など幅広い組織や個人と、連携協働して、スポーツイベントを開催されたことがあると思うが、その時の話と、今日全体のまとめで、商工会は、この町の9割以上を担う小規模、中小規模事業者を含めた団体なので、町に関係が深い塊みたいなものなので、そこを総括的に踏まえて、発言いただければありがたい。

委 員：我々商工会は、町の至るところに、年齢も幅広く、組織として成り立っている。以前、実行委員長をやっていた時、東京オリンピック後に、あま市出身のオリンピックを呼んで、「あまフェス」というフェスタを開催した。金メダルの加納選手、銅メダルのアーチェリーの武藤選手、パラリンピックに出場した、カヌーの加治選手をお招きして、スポーツのPRを進めさせてもらった。その時も、いろいろな方々に参加していただき、あま市出身のお笑いタレントも、呼んだこともあって、すごく大盛況で終わった。人手不足という話が、出てたが、おかげさまで、18歳～45歳までの人員で組織している、青年部は、かなり人数が増えて、今70名弱いる。かなり若い力が、商工会の中では、育ってきている。さらに

は45歳～60歳までの、まだ体は動くぞという人たちを集めて、新しい組織を作ろうと思っている。フレキシブルに動ける団体組織ができ上がるので、コラボレーションというか、我々を使っただけ、色々なアイデアを出してもらえば、一緒に何かできないか、商工会が一番協力できるじゃないかと感じた。今年、アジアパラリンピックというイベントがあるので、来年そういう事をやれるといいなと、おぼろげに思っていたので、一緒にレクリエーションとか、スポーツだけではなく、体を動かしてできることを、合わせて考えたい。

会 長：スポーツを通じたまちのにぎわいで、コミュニティづくりにおいて、プロスポーツの試合とか、大規模なスポーツイベントの開催誘致により、まちのにぎわいや活性、シティプロモーションに繋がる機会を創出するとともに、これらの取り組みを通じて、市とか関係団体が一体となって、スポーツ関連施策を推進することは、大変重要なこと。また、子どもから大人まで、幅広い世代が気軽に参加することができるスポーツイベントの開催を通じて、多世代の市民が交流できる場も作り出したり、スポーツをすることの楽しさを実感しながら、さらには地域のコミュニティの活性化を図ることができると、とてもすばらしいと思う。スポーツ関係団体、まちづくり団体、商工団体、企業など、幅広い組織や個人と連携や協働して、スポーツイベントなどを開催することによって、スポーツの無関心層を中心に、スポーツの裾野を広げるとともに、地域交流の促進とまちの活性化が図れたら最高だなと感じた。

会 長：意見交換テーマ「スポーツを通じたまちのにぎわいとコミュニティづくりについて」多くの意見、ありがとうございます。事務局と私で、提言等の内容につきまして方向性をまとめ、皆さんに提示の予定。

委員一同：了承。

会 長：賛同を得る。次回の会議において整理したものを報告予定。
本日の議題は、全て終了。

5 その他

事務局：次回の令和8年度第1回あま市スポーツ推進連絡会議は、令和8年7月頃を予定。日程が決まり次第案内。

会 長：以上を持ちまして、本日の連絡会議は終了。